

後、登天台楞嚴院、落飾入道云々、發心之根源、天皇晏駕之期、梓宮不供燈問其由、所主殿司皆依勤新  
主之事云々、聞此事、忽發心云々、尋常之時、常ニ詠白樂天詩、古基何世人、不知姓與名、化爲道傍士、年  
年春草生、又云、アハレ無罪ヲ配所ノ月ヲ見バヤ云々、住大原山、決定往生人也、法名圓昭、此人先登  
横川落飾後、住大原云云、出家ノ時、宇治殿藤原頼道訪向其室、終夜御物語アリケリ、一言モ今生事ヲ  
バ申サレズ云々、宇治殿後世ニハ必ズ令引導給ヘナド示給ヒテ、臨曉歸給カンドシ給ケルトキ、  
俊實ハ不覺者ニ候ト被申ケリ、其時ハ何トモ不令思分給歸給之後、案給ニ指ル次モ无ニ、子息ノ  
コトヨモアシキサマニハイハレジ、不可見放之由、被命ケルナリケリ、思取雖遁世、恩愛者猶難弃  
事ナレバ、思餘リテ、被云出タリケリト、アハレニオボシテ、觸事令致芳心給ケリ、美濃大納言トハ  
此人事也、○又見古今著聞集

〔沙石集九〕俗士之遁世門事

故少納言入道信西ノ十三年ノ佛事、其子孫名僧、上綱達、ヨリ合テ、一門八講ト名テ、ユ、シキ佛事、  
醍醐ニテ行ハル、事有ケリ、開白ハ聖覺法印、結願ハ、明遍僧都ト定テ、覺憲僧正、澄憲法印、證憲僧  
正、靜憲法印等、使者ヲ高野ヘツカハシテ、此ヨシ申サル、ニ、遁世ノ身ニテ侍レバ、エマイラジト、  
明遍僧都返事ヲセラレケルヲ、兄ノ僧正達、大ニ心エヌ事ニ思テ、サレバ遁世ノ身ニハ、親ノ孝養  
セヌ事カ、サバカリノ智者學匠ト云御房ノ返事、返々思ハズナリトテ、ラシ返シ、使者ヲ以テ、此ヨ  
シヲ申サル、又返事ニ、此仰畏テ承候ヌ、遁世ノ身ナレバ、親ノ孝養セジト申ニハ、侍ラズ、各ノ御中  
ヘ參スル事ヲ、ハ、カリ申也、其故ハ遁世ト申事ハ、何様ニ御心得共候哉、覽身ニ存ジ候ハ、世ヲモ  
ステ、世ニモステラレテ、人員ナラヌコソ、其スガタニテ候ヘ、世ニステラレテ、世ヲステヌハ、タ  
非人也、世ヲスツトモ、世ニステラレズハ、ノガレタル身ニアラズ、然ニ各ハ南北二京ノ高僧名人  
ニテ御坐ス御中ニ參ジテ、一座ノ講行ヲモツトメ候ヒナバ、若シ公家ヨリ召サレン時ハ、イカ